

「礼」卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。「座ってください。」

柔らかな春の日射しを浴び、桜のつぼみもふくらみを増した今日の佳き日に、保護者の皆様のご臨席を賜り、本校第四十回卒業式が挙げていただけますことは、私どものこの上ない喜びであり、心から感謝申し上げます。

さて、小学校六年間の課程を修了し、本日、東ときわ台小学校を巣立ち行く卒業生の皆さん、改めまして、ご卒業おめでとうございます。皆さんは六年間の小学校生活を立派にやり遂げ、素晴らしい思い出をたくさん残して、今、飛び立とうとしています。

巣立ちの日にあたり、二つお話をします。

まず、最初のお話です。

今から一つの数字を言いますが、その数字が何を表す数字か、少し考えてください。1155という数字です。

1155。これは皆さんが小学校に通った日数です。皆さんの人生において今日は、小学校で過ごす1155日目です。そして、小学校で過ごす最後の日です。

1155日、どのような一日一日を積み上げてきましたか。ピカピカに輝く、完璧な小学校生活だった。そう言える人はきっと多くはないでしょう。日々の授業はもちろん、考え尽くして取り組んだ修学旅行や学習発表会、精一杯に全力を發揮した運動会、力の限りを尽くしたことに喜び合い、心通った日もあったでしょう。しかし、叱られたり、ケンカをしたり、ふとしたことですれ違ってしまったことに、涙した日もあったかもしれません。コロナ禍の中で休校になり、友達に会えなくなってしまった日もあり、皆さんにはつらい思いをさせてしまいました。

しかし振り返ってみると「完璧でないこと」は「ダメなこと」では決してありません。なぜなら、失敗したり、弱かったり、つらい思いをしたりする、そのような経験を持っている人は、人の痛みが分かります。人の悲しみが分かります。人にやさしくできます。失敗をした人を許すことができます。ぜひ、そのような人でいてほしいと思います。これまでの1155日がどのような一日一日であっても、皆さんの「小学校時代の大切な一日」であったはずで、1155日目である今日、これまでの日々を振り返り、これからも人に対して優しい人でいてください。これが、伝えたいことの一つ目です。

二つ目のお話です。

私は、皆さんとは六年間のうちの一年しか同じ時を過ごせませんでした。初めて校長となった私にとって、皆さんは初めての最高学年であり、ともに東ときわ台小学校を創り上げる、大切に思い入れのある児童でありました。大いなる期待をしていました。皆さんとの一年は、思い出深いものになりました。

コロナ禍でも、負けずに前向きに努力する皆さんに、私は励まされ、元気をもらうとともに、多くの希望を抱くことができました。だから、可能な限り、少しでも良い学びを、良い体験をできるように、素敵な思い出をつかってあげたいと思いました。そのような思いの中で、何とか実施できたことの一つに修学旅行があります。広島へ行った際に、被爆体験証言者である山本玲子さんから、命を大切にすることを学びました。そして、そのことに多くの人が心揺さぶられました。平和について学び考えたことを、学習発表会で「七十六年前の世界から君へ」で見事に表現されました。そのような素直な気持ちを持つ皆さんだからこそ、まわりの方々から愛され、応援してもらえました。

皆さん、ご家族の方々や地域の皆さま、そして先生方にいつも励まし支えられ育ったことを忘れないでください。素直な気持ちと感謝の気持ちをもって人と接する、そのようなことを大切にしてください。そして、命を大切にしてください。これが、伝えたいことの一つ目です。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。(左・右 礼)

小さな体に大きなランドセルを背負うお子様の姿など、きっと入学した日のことが走馬燈のようによみがえっている事と思います。今日までお子様を慈しみ、はぐくまれた日々には、子どもたちと同じく、様々な一日があったことと拝察いたします。その子どもたちも今日ここに見事に成長して、卒業の日を迎えました。この六年間、いつも温かな気持ちで学校にご協力していただきましたことに、心から感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。(礼)

さて、卒業生の皆さん、今日この後から、東ときわ台小学校はあなたの母校となります。四月から始まる新しい生活の中で、あなたの母校の先生方全員がいつもいつまでも、大好きな皆さんのことを、心から応援していることを忘れないでください。

そして、ぜひ、様々なことに挑戦し、頑張ってください。

卒業生の未来が希望に満ちた輝かしいものになることを祈念して式辞といたします。